

事業実績報告書

(※市ホームページに掲載予定ですので、できる限りわかりやすく記載してください。)

団体名 サークルささるんと

1	事業名	親子で防災！サバイバルキャンプ
2	事業の内容（実施日、場所、回数、内容、参加者数などを含めて具体的に記入してください。）	72時間サバイバル教育協会 代表 片山誠さんを講師に迎え 『親子でサバイバル！自分の身を人も助けられる自分になろう』を開催 【実施日】 令和6年11月17日（日） 【場所】 宝塚自然の家 【参加者数】 48人 大人21（スタッフ含む） 子ども16 未就学児9 講師2名 【内容】 講師から（親への）メッセージ 『子どもに口出さずに見守ってね』子ども達のペースを大事にし、成功体験も、失敗体験もして自分のスキルにしてほしいとのメッセージ それぞれのペースで体験を通じて学んだ ・マッチやメタルマッチ、集めた枝や新聞紙、薪で火おこしをした ・炊飯器がなくてもご飯を炊く方法を考えた ・市販のテントやタープを使って日よけや雨除けになるシェルターを作った ・市販のテントやタープがない時どうするか考えた ・ブルーシートとロープを使ってシェルターを作ってみた 自宅でいいので、二日間～ ガス、電気、水なしで生活することを体験してみる事を講師からは提案された そしてみんなでイメージして考えた その防災グッズいる？災害時役に立つ？ 本当に必要なものって人によって違うのでは？ など 防災グッズを準備するよりも、隣近所とあいさつをしてピンチの時に助け合える人間関係を作っておくことの方が生き残れるよね という話にもなった
3	市制70周年をお祝いした内容	サークルささるんととの活動に助成をいただきありがとうございました。 子育て世代なので、子育てに関する活動を行っておりますが 世代に関わらず、たくさんの市民活動が活発になり、市民個々のレベルが上がり つながりが強くなり、仲間や助け合いの心が増え、災害があってもなくても より住みよい街になればと思っております。 災害時、助けを待っているだけでなく、自ら考えて行動する力をつける そんな仲間が増え、今後の80周年に向けて、もっと幸福度が上がるような街になるよう にとお祝いの気持ちをこめて防災や災害について話し合い、集まって活動しました。

4 事業の効果・成果

空き缶と西谷のお米と、自分たちでおこした火でごはんを炊きました。
火おこしは、何度も何度もマッチをすったり、メタルマッチで頑張る子もいたり
それぞれのペースで失敗もしながら頑張りました。

火が起こせたら災害時（に限らず）どんないいことがある？

- ・ごはんが作れる
- ・温かいものが食べられる
- ・寒さをしのげる
- ・みんなが集まる場ができる などなどいろんな意見が出ました。

会議室で学ぶのとは違って体験として身に着け、親子で考える機会にしました。
当日は、まだやり足りないことをたくさん残し、あとは各々帰ってからやってみて
もらう事で会を締めくくりました。

参加者アンケートからは

- ・子どものチャレンジを見守る時間を作ってもらえてありがたかった、マッチで火をつける事も初体験だったけど最後に火を起こせたことは息子にとってもいい経験になった
 - ・テントやタープもちょっとしたコツがあることがわかった
 - ・親子で防災について考える機会となってよかった
 - ・道具がなくてもなんとかでも生きていける自信を家族でつけていきたい
 - ・水や食料の確保の仕方、被災地での人と接し方、トイレの事、あるものでなんとかやっていく力（複数の方からの回答）を今後もっと考え学んでいきたい など
- 回答をいただきました。

たくさんの参加者が防災や自分のサバイバルスキルを上げていくことに前向きになって
もらえたようでした。家に帰ってからも考える事を続けると言ってくれていました。
災害はない方がいいものですが、それぞれの親子が災害や防災についてしっかり考えて
いこうという気持ちを持ってもらえました。

5 実施した安全対策

- ・子どもだけの参加ではなく、親子で参加して頂いた
- ・参加者お互いの安全配慮、参加者以外の自然の家に来られている方への安全配慮の周知を行った
- ・未就学児も含めた全ての方にレクリエーション保険加入をしていただいた
- ・困ったときにすぐスタッフが分かるようにネームカードをつけ、広域に配置した